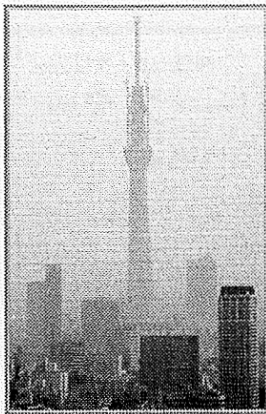


週刊新潮

5月19日号
340円

偏西風に乗って有害物質が飛来

週刊新潮 P.127 より



スカイツリーもぼんやり

車や洗濯物の汚れは、厄介だけれど、洗えば落ちる。が、ようやく花粉も治まっ

て東京をはじめとする東日本にまで広がった。前線を伴った低気圧が日本海を進み、薫風ならぬ猛烈な西風が吹いたためである。東京、横浜、新潟などでは今年初めて黄砂となった。

2日には近畿、中部、そして東京をはじめとする東日本にまで広がった。前線を伴った低気圧が日本海を進み、薫風ならぬ猛烈な西風が吹いたためである。東京、横浜、新潟などでは今年初めて黄砂となった。

「黄砂」より怖い 中国「越境大気汚染」

車で遠出を、と思ったこの連休、ボンネットの汚れが尋常ではない——5月に

て、マスクが手放せると思った人々にとっては、新たな「敵」の襲来である。

「黄砂の主成分の二酸化ケイ素が、アレルギー症状を悪化させる。花粉症の人に は当然、影響が出ます」と、科学ジャーナリスト。

「しかも、黄砂発生のピークは、3月から5月とされ

ていますが、昨年と一昨年九州や中国地方では2年連続で12月に黄砂が観測された。師走の黄砂ですが、これを吸い込めば、花粉シ

ーズンを前にアレルギー症状が出る可能性がある」アジア内陸部の砂漠化が、乱開発などで進行している

というところか。しかし、健康被害の面で、より気になる指摘をするのは、九州大学応用力学研究所の竹村俊彦准教授(気象学・大気環境学)だ。

「10年ほど前から、中国の大気汚染物質が飛んでくる、『越境汚染』が観測されるようになりました。工場から排出されたススや硫酸塩といった微粒子が、偏西風に乗って飛来する。黄砂は吸い込んでも、気管に引っかかるが、微粒子は細かいので肺の奥まで入り込む」

それは肺胞から血管の中まで入り、循環器や心臓に悪影響を及ぼすという研究もあるのだとか。

「越境大気汚染は、偏西風が強まる春と秋に起こりやすいんですが、この2月上旬にも、九州では1週間ほど空が霞んで、微粒子の増加が観測されました」

今年の「越境」は既に昨年を上回るペースだという。マスクを外す暇がない。

超高級 「ペニンシユラ」も 「激安」大作戦

1室2名利用でスーペリアルーム1泊3万3500